

調査研究から

相模湾定置網の漁海況 平成 20 年上半期の経過と平成 20 年下半期の見通し

平成 20 年 8 月 6 日に、神奈川県水産技術センター、同相模湾試験場、静岡県水産技術研究所伊豆分場が参加し、相模湾定置網漁海況の平成 20 年上半期の経過と平成 20 年下半期の見通しについて協議しました。以下にその概要を示します。

1 平成 20 年上半期（1～6 月）の経過

（1） 相模湾周辺の海況

黒潮は、1～3 月は N 型でしたが、4 月上旬から中旬に小蛇行が見られ、一時的に B 型から C 型となり、下旬には B 型、5 月後半以降 C 型に推移し、6 月末までそのまま経過しました。沿岸水温は、1～4 月中旬は平年並で推移しましたが、4 月下旬には暖水波及によりきわめて高めとなり、5 月上旬も高めで推移しました。中旬以降 6 月までは、5 月下旬にやや高めであったのを除き、全般に平年及び前年並みで推移しました。

（2） 定置網漁況の経過

相模湾における定置網漁場の地区名を第 1 図に示しました。また、平成 20 年 1～6 月までの神奈川県内各定置網漁場及び伊豆東岸地区の標本漁場の計 35 ヶ統における魚種別漁獲量を第 1 表に示しました。

ア 総漁獲量

今期の総漁獲量は 7,911 t であり、前年（7,035 t）を上回りましたが、平年（平成 14～19 年の平均；8,203 t）を下回りました。

伊豆地区が 2,320 t と最も多く、次いで西湘地区が 2,133 t、湘南地区が 1,775 t、三浦地区が 1,531 t、金田湾地区が 152 t でした。今期は、サバ類、マルソウダ、スルメイカ、スズキ、アカカマスが平年を上回り、マアジ、マイワシは平年を下回りました。



第 1 図 定置網漁場の地区名

イ 魚種別漁獲量

① カタクチイワシ

湘南地区で最も多く漁獲され、平年及び前年並の 2,779 t 漁獲され、前年の 1.1 倍、平年の 1.0 倍でした。

② サバ類

西湘で最も多く伊豆、湘南、三浦を中心に 1,929 t が漁獲され、前年の

1.8 倍、平年の 1.1 倍と上回りました。

③ マアジ

西湘及び伊豆地区を中心に 1,168t 漁獲され、前年の 0.8 倍、平年の 0.6 倍と下回りました。

④ マルソウダ

ほとんどが伊豆地区で 312t が漁獲され、前年の 55.3 倍でしたが、平年の 3.1 倍ときわめて好調でした。

⑤ スルメイカ

伊豆地区を中心に 297t が漁獲され、前年の 1.2 倍、平年の 1.9 倍と上回りました。

⑥ ブリ

伊豆地区を中心に 255t が漁獲され、前年の 0.8 倍と下回りましたが、平年並でした。ぶり銘柄は 79t と前年の 1.6 倍と上回り平年並で、わらさ銘柄は 73t で前年の 0.4 倍、平年の 0.8 倍と下回りました。また、いなだ銘柄は 79t で前年の 1.2 倍、平年の 1.3 倍と上回り、わかし銘柄は 25t で前年の 2.3 倍、平年の 5.2 倍と上回りました。

⑦ スズキ

三浦地区を中心に 124t が漁獲され、前年の 1.3 倍、平年の 1.4 倍と上回りました。

⑧ マイワシ

西湘、湘南、三浦地区を中心に 93t が漁獲され、前年の 0.2 倍、平年の 0.6 倍と下回りました。

⑨ アカカマス

西湘、湘南、三浦地区を中心に 78t が漁獲され、前年の 1.5 倍、平年の

第 1 表 平成20年上半期（1～6月）における地区別魚種別漁獲量（t）

地区名	伊豆	西湘	湘南	三浦	金田湾	総計
標本漁場数	8	10	6	8	3	35
操業日数	942	1,171	630	896	295	3,934
1 カタクチイワシ	528	395	1,155	656	43	2,779
2 サバ類	577	749	321	250	32	1,929
3 マアジ	313	576	100	152	27	1,168
4 マルソウダ	297	13	2	0	0	312
5 スルメイカ	199	87	6	5	1	297
6 ブリ	144	33	9	70	0	255
7 スズキ	2	7	18	71	27	124
8 マイワシ	10	27	23	22	11	93
9 アカカマス	3	20	22	33	0	78
10 マルアジ	0	3	34	24	0	61
11 その他	247	223	85	249	10	814
総計	2,320	2,133	1,775	1,531	152	7,911

1.7 倍と上回りました。

⑩ マルアジ

湘南、三浦地区を中心に 61 t が漁獲され、前年の 1.5 倍と上回りました。

(3) 特異現象

- ・ 白浜定地水温は、1～2 月は総じて平年並（昭和 33 年～平成 19 年の平均値）で、前年より低めで推移しました。
- ・ 1 月から 3 月 15 日まで、3 回駿河湾に黒潮系暖水が流入しました。いずれも黒潮の小蛇行、暖水舌の東進によるもので、1 回目は 1 月 18 日から 23 日で、駿河湾内では 13～14℃台のところに 15～16℃台の暖水が流入し、2 回目は 2 月 25 日から 3 月 1 日で、駿河湾内では 13～14℃台から 14～15℃台へと 1℃程度上昇し、3 回目は 3 月 5 日から 3 月 10 日で、駿河湾内では 13～14℃台から 14～15℃台へと 1℃程度上昇しました。この暖水は相模湾にも波及し、稲取沖では 3 月 8 日に 2℃の昇温と 2.4 ノットの北上流が観測されました。
- ・ 白浜定地水温は 3 月から 4 月中旬までやや高めで推移しましたが、下旬に入り高めからきわめて高めで経過しました。20℃以上の強い暖水波及があり、駿河湾では急潮が発生し、高めの傾向が 5 月下旬まで続きました。6 月に入ってから、水温はやや高めから平年並で推移しています。
- ・ 8 ヶ統合計漁獲量は、1 月は 110 t（平年比 66%）、2 月は 152 t（平年比 84%）と低迷が続きましたが、3 月は 422 t（平年比 120%）とやや好転し、4 月は 398 t（平年比 96%）でしたが、5 月は 967 t（平年比 209%）と昭和 57 年以降で 2 番目に多く漁獲された。しかし、6 月には 258 t（平年比 63%）と再び低迷しました。
- ・ 1 月にサワラが 6.3 t（平年比 2,814%）入網し、昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
- ・ 2 月にスルメイカが 80.7 t（平年比 705%）、ホウボウが 10.5 t（平年比 796%）入網し、それぞれ昭和 57 年以降では最も多く漁獲されました。
- ・ 3 月にブリが 50.5 t（平年比 294%）入網し、昭和 57 年以降では 57、58 年に次いで 3 番目に多く漁獲されました。
- ・ 3 月にカタクチイワシが 292.8 t（平年比 474%）入網し、昭和 57 年以降では 2 番目に多く漁獲されました。
- ・ 5 月にマルソウダが 278 t（平年比 1,615%）入網し、昭和 57 年以降では最も多く漁獲されました。
- ・ 5 月にマアジは 71.6 t（平年比 39%）と低迷しましたが、じんだは例年より早く 4 月から漁獲され、5 月には 9.5 t と昭和 57 年以降で最も多く漁

獲されました。

- ・ 下田市の田牛では、平成 16 年の黒潮大蛇行を契機にカジメ磯焼けが発生しましたが、平成 20 年 6 月まで 3 年強磯焼け状態が継続しています。これまで、田牛でのカジメ磯焼けは数年継続することが知られていますが、同じ状況となってきました。
- ・ 沼津市内浦湾でアカウニ、バフンウニが過去 3 年のうちで最も多く出現しています。

2 平成 20 年下半期（7～12 月）の見通し

（1）海 況

8 月～11 月にかけて変動が大きく、B 型と C 型流路を繰り返すが、12 月以降 B 型流路となるでしょう。相模湾沿岸の水温は、「平年並」から「やや低め」で推移し、暖水波及時に「やや高め」～「高め」となるでしょう。

（2）漁 況

ブリ

上半期のいなだ（1 歳魚）の漁獲は前年及び平年を上回り、前年の 0 歳時にも多獲されているため、7～8 月の 1 歳魚（いなだ～わらさ）の漁獲は前年並（7～8 月で 28 t）の高水準が期待されます。わかし（0 歳魚）の漁獲量は前年並の低水準であるが、前年は 8 月に急増して 67 t が漁獲されたため、現時点で 0 歳魚の豊凶を予測するのは非常に難しいのですが、7 月以降もまとまった漁獲がないため、わかし（0 歳魚）の漁獲量は多かった前年を下回ると予測されます。ただし、いなだ～ぶりの特異的な入網もあるため、その場合、漁獲量は予測を上回ることも考えられるでしょう。

マアジ

下半期の来遊水準は、漁獲の中心となる 0 歳魚の漁獲量は上半期のじんだ（0 歳魚）の漁獲量（11.3 t）が多かったことから、伊豆地区の漁獲量は前年を上回る 130 t 程度、西湘地区は 150 t 若しくはそれを上回り、湘南 120 t、三浦地区は 150 t で相模湾全体で 550 t 程度と見込まれるでしょう。

サバ類

ゴマサバ 0 歳（2008 年級群）は前年より少なく、1 歳（2007 年級群 尾叉長 27～34 cm）を主体に漁獲され、2 歳（2006 年級群）、3 歳魚（2005 年級群）は少ないと考えられます。下半期伊豆地区のサバ漁獲量は前年を上回る 750 トン、西湘地区 650 トン、合わせて前年を上回る 1400 t と見込まれるでしょう。ただし、7 月に西湘地区で 800 t を超える特異的な漁獲があったため、これを加えると全体として 2200 t 漁獲されると考えられます。

マイワシ

漁獲の主体となるのは0歳魚（2008年級群）で、神奈川では前年を上回り2,000 t程度でしょう。

カタクチイワシ

漁獲対象は10～13 cmの成魚主体で、10月以降は9 cm未満の未成魚主体となるでしょう。上半期の漁獲経過から、神奈川では前年を上回る1,000 t程度でしょう。

（御宿昭彦）